

船舶事故等調査報告書

平成22年9月30日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2010門第89号	
事故等種類	乗揚	
発生日時	平成21年12月25日 20時40分ごろ	
発生場所	山口県防府市三田尻中関港 三田尻中関港三田尻第五号灯浮標から真方位 348° 630m付近 (概位 北緯34° 02.2' 東経131° 35.4')	
事故等調査の経過	平成22年6月7日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所） を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報	<p>船種船名、総トン数 船船番号、船舶所有者等</p> <p>A 押船 第五^{さんとく}徳丸、136トン 135472、丸阿産業株式会社</p> <p>B バージ 第六^{さんとく}徳丸、約2,786トン なし、丸阿産業株式会社</p>	
乗組員等に関する情報	A 船長A、五級海技士（航海）	
死傷者等	なし	
損傷	A 右舷側シューピースの脱落、左舷側シューピースにき裂	
事故等の経過	<p>A船は、船長Aほか7人が乗り組み、海砂約3,500m³を積んだB船を 押し、船首約5m、船尾約5mの喫水で、三田尻中関港築地3号岸壁に着 岸作業中、平成21年12月25日20時40分ごろ、同3号岸壁付近の 浅所に乗り揚げた。</p> <p>その後、自力で目的の岸壁に着岸し、揚荷完了後に通常の航海についた。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 北西、風力 1</p> <p>海象：静穏 潮汐：ほぼ低潮時</p>	
その他の事項	<p>A船は、着岸作業中に異常振動が発生して前に進まなくなったが、少し してまた動き出した。</p> <p>徳山海上保安部三田尻中関分室によれば、築地岸壁付近の海図水深は5 m70cm～5m80cmで変更されていない。</p>	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>A船は、B船を押し、三田尻中関港築地3号岸壁 に着岸する際、船長Aが、いつも着岸していた岸壁 付近に浅所があることを知らず、約5mの喫水で、 低潮時に接近したことから、砂が堆積した浅所に乗 り揚げた可能性があると考えられる。</p> <p>3号岸壁付近の水深は、揚げられた海砂がこぼれ て堆積し、浅くなっていた可能性があると考えられ る。</p> <p>A船の船尾喫水が、約5mよりも深くなっていた 可能性があると考えられる。</p>

原因	本事故は、A船が、B船を押して三田尻中関港築地3号岸壁に着岸する際、船長Aが同3号岸壁付近に砂の堆積した浅所があることを知らずに接近したため、同浅所に乗り揚げたことにより発生した可能性があると考えられる。
----	--